



(写真説明) 山形県を代表する開発型企業を築いた佐久間特別顧問(手前3人の中央)と鈴木社長(同左)＝写真左＝と、鈴木製作所本社

経済産業省中小企業庁は高度な技術を用いて革新的な製品を供給している企業を「元気なモノ作り中小企業300社」(二〇〇六〜〇九年度)として選定した。山形商工会議所管内からは六社が選ばれている。地域経済で重要な役割を担い、キラリと光る「会員企業」。今月はミシン業界のパイオニア(株)鈴木製作所(山形市嶋南)を紹介する。

世界初 小型ロックミシン 開発型企業のパイオニア

今や国内で小型ロックミシンを造っている会社は私どもだけになってしまった。これからも開発型企業として挑戦し続け、山形から世界に発信

(株)鈴木製作所

(株)鈴木製作所 鈴木重幸代表取締役社長 会社設立昭和二十八(一九五三)年、資本金六五〇〇万円、

していききたい(鈴木重幸社長)

この言葉を裏付けるのが以下の数字だ。特許権総出願件数二百六十一、海外出願件数百二十一(二十四カ国)、海外販売先十五カ国(家庭用ミシン)十カ国(工業用ミシン)。主な受賞歴に目を向ければ三浦記念賞に始まり、ゆとり都山形イノベーション大賞、二度にわたっての山形エクセレントデザイン大賞、県産業賞、元気なモノ作り三百社(二〇〇六年度)。特筆されるのが平成八年の発明大賞(日本発明振興協会選考)だ。

同社発展の原点は「ベビロック」として知られる小型縁かがりミシンの開発であり、佐久間孝一特別顧問の存在を抜きにしては語れない。時計の針を昭和三十年、半世紀以上も前に戻す。当時、町のあちこちに背広や婦人服の仕立て屋さん(店を構えていた。創業したばかりの同社には仕立て屋からミシンの修理依頼が寄せられた。修理に向いた佐久間氏はそこで疑問を持った。

店の様子を見ると旦那さんが裁断

従業員一〇三名、山形市嶋南一丁目12-7、(電話)023-684-0843、E-mail:suzuki@suzukikis.co.jp

オンリー・ワンへ続く挑戦 創業の精神、若手が継承

営業現場からある時言われた。「ミシンは良いのだけれど糸通しがどうも」。中年のお客さんから、そういえば自分も老眼に。自動的に糸通しができるものか。ふと思いついたのが少年時代の模型飛行づくり。霧吹きで羽に貼った紙を伸ばしたとき、糸屑が一緒に吹き出たことがあった。あれを応用できないか。空気の力で糸を自動的に出すことができれば、お客さんに難儀をかけなくてすむ。試行錯誤の末、エアスルーシステムが誕生した(佐久間特別顧問)。

絶えず新たな市場、ニーズに目を向けている。「sashiko」はその代表的な一つで、欧米で人気のパッチワーク・キルト、日本で昔から伝わってきた刺し子を、ミシンでだけ

奥さんがミシン掛け、そして見習いの女の子が、裁断した生地をほつれの縁かがりと分業している。ところが三年たっても同じ光景。私は思った。自分は五年で一人前になったが、あの女の子はいつかいつかになった。洋服を縫えるようになるのか、縁かがりをミシンでやれるようになるのか。ばい。(佐久間特別顧問)

そこから開発の物語は始まった。寝てもさめても頭の中は「どうすればいいのかわかり。八年間考え続けた。最初は木型で、次にバケツ一杯の鉄屑を切断、溶接し模型を作った。試行錯誤の末、ついに製品化に結びつけた。工業用の縁かがり(ロック)ミシンはあった。しかし、大型で価格は高い。同社のロックミシンは「ベビロック」の名が示すように小型、家庭用、手ごろな価格が特徴。あつという間に市場に知れ渡った。大手ミシンメーカーの度肝を抜いた。もともと佐久間氏は工業用ロックミシンの存在を知らなかった。「知っていたら(それに)とらわれ、独自の工夫はできなかった」と苦笑する。それから世界初のエアスルーシステム(ジェットエア搭載)のロックミシン「衣縫い」、一本糸特殊飾り縫いミシン「sashiko」など画期的な製品を次々と世に送り出している。ひらめきは「日常の中」にある。

でも簡単にカーブ縫いや角縫いが手縫い風に行けるよう開発した。「(夫人の)趣味の世界を広げたい」という佐久間氏の基礎開発を受けて、開発部の若手が量産に向けての研究に着手、山あり谷ありの困難を乗り越えて商品化に成功した。山形エクセレントデザイン大賞を受賞した。同社のもう一本の柱は包装機。三十年ほど前、試作を依頼され実際に見てみようとして岩手の煎餅作りの店に向かった。しかし、包装機は止まっていたばかり。故鈴木重雄会長が「修理してあげるから」と持ちかけ、機械を分解し、ポラロイドカメラで撮影した。機械の構造よりも流れに問題があると突き止め独自の工夫を凝らし製品を作った。

ミシン業界のパイオニア的役割を果たして来たのでは、と自負しています。しかし、これからは本場の正念場です。会社を立ち上げ発展の土台を築いてきた先輩、販売会社、顧客の方々の支えを基盤に、私どもにしかできない「オンリー・ワンの製品」を今後とも開発し、提供していきます(鈴木社長)。

同社の工場に「五つのe・会社にしよう」と目標が掲げられている。その五つは「開発」「改善」「環境」「協調」「向上」。